

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 豊橋市立中部中学校

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫※注1
☒ 中学校 ☐ 中高一貫※注2 ☐ 高等学校
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校
☐ 特別支援学校
☐ その他（例：小中高一貫）

所在地 〒441-0813
愛知県豊橋市舟原町154番地

E-mail chuubu-j@toyohashi.ed.jp

Website www1.chuubu-j.toyohashi.ed.jp/chuubu-j/

幼児児童生徒数 男子 304名 女子 310名 合計 614名
幼児・児童・生徒の年齢 12歳～15歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

（1）活動の概要

本校は、「中部中71 つなげよう！ ひと・いのち・こころ ～今、踏みだそう 小さな一歩を！～」を学校理念いる。ESDを自己や集団の尊重と捉え、ESDの実践を通して、仲間との絆を高め、地域とよりつながっていく力の育成を目標とした。具体的には、次の三つを意識した活動を行った。「伝統と新しい一歩を大切にする活動」、「生徒主体の活動」、「地域とふれ合う活動」であり、実際の活動については、体育祭、文化祭、長距離歩行を紹介する。

① 体育祭での応援合戦（伝統と新しい一歩を大切にする活動）

応援合戦は体育祭の種目の一つである。自分たちの気持ちを応援という演技の中で表現するものである。この演技は集団で行い、三学年が息の合った動きを披露する。そのため、観戦者からも熱い視線が注がれる。本校の伝統種目である。本年度は今までにない新しい応援で自分たちを表現しようとした。学生服、法被などさまざまなスタイルで熱い演技を展開した。更には、この応援合戦は3年生が下級生を指導する練習方式をとっている。団長と呼ばれるリーダーを中心とした練習は、異学年の交流である。このような活動は、日頃の学校生活では経験できない。交流を通してそれぞれの学年でさまざまなことを学ぶことができた。

② 文化祭での学級企画（生徒主体の活動、地域とふれ合う活動）

文化祭のイベントにお客さんを楽しませる企画がある。お客さんは近隣の小学校の児童であったり、地域の皆さんであったりする。教室には生徒が考えた手作りのゲーム機や遊び道具が備えられ、また、おもてなしの気持ちでお客さんと楽しい時間を過ごしている。本年度は、輪ゴムピストルでの射的、見えない箱の中に入っているものをあてるゲーム、スライムづくりなどお金をかけなくても楽しむことができる企画でお客さんをたのしませることができた。このような取り組みで地域とのつながりをより深めることができた。

③ 豊川を仲間と歩くTBW（地域とふれ合う活動）

学校近くを流れる豊川周辺の長距離歩行をTBW（TOYOGAWA BIG WALK）と呼んでいる。今年で38回目を迎える伝統行事である。生徒の状況や教師の願い、地域の要請に合わせて、参加学年・コース・距離などが少しずつ変化している。

出発は、まだ冬の寒さが身にしみる午前8時。学校に集合し、出発式後、順にスタートした。参加者は、班で協力しながらひたすら歩く。チェックポイントでスタンプを押してもらったり、励ましをいただいたりした。歩行途中で自然の雄大さ厳しさを感じた。また、仲間と励まし合ったり、交通安全指導に協力してくださる保護者に見守られたりした。そして、ゴールするとPTA役員によりうどんが用意されている。温かいうどんを食べながら完歩できた喜びも味わうことができた。このように地域の自然や人とのつながりを感じたはずである。



体育祭 応援合戦



文化祭でのスライムづくり



文化祭 箱の中身は何か？



TBW 仲間と完歩を目ざして

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

■ 1. 環境	□ 2. エネルギー	□ 3. 防災	□ 4. 生物多様性
□ 5. 気候変動	□ 6. 国際理解、文化多様性	□ 7. 地域の伝統文化、文化遺産	□ 8. 人権・平和
■ 9. 健康・福祉	□ 10. 食育	□ 11. 持続可能な生産と消費	□ 12. 貧困
□ 13. エコパーク	□ 14. ジオパーク	□ 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
□ 16. ジェンダー平等	□ 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 学校行事)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（２００～３００字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ふだんの授業を大切にするようにしている。生徒が自分の言葉で発言できるように助言している。また、なぜそのような考えになるのかを理論づけて発表できるように指導していきたいと考えている。また、お互いの意見を尊重しあえる学級づくりも大切している。

身近な教材や題材を扱えるように単元の工夫をしている。特に校区内の文化や史跡などにも関心をもてるようにしている。また、全てではないが、問題解決的な展開や生徒どうしで議論しあえるように単元を扱うこともある。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（２００字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

現職研修を月に一回程度実施し、新しい指導要領や評価算出の勉強会を行ってきた。また、関心・態度・意欲の評価について全職員で考える場面を設定したことは、大変に有意義な研修となった。

授業研究会では、教科部会の枠をなくして検討会を行うようにしている。また、期間を決めて、お互いの授業を相互に参観できるようにしている。このことで授業力をみんなで高めていくことにつながった。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（２００字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校全体でこの視点で評価をすることは行いませんでした。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

全校生徒で取り組む学校行事においては、常に地域の皆さんが応援してくださり、この校区のよさを再確認できた。また、70周年を区切りに伝統のすばらしさと、新しい一歩を踏み出す大切なことができた。

また、ふだんの授業においては、お互いの意見を尊重でき、熱心に授業に参加できた。その結果、学力を高めるだけでなく、答えを導き出す過程についても関心をもつことができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

本年度は実施していません。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

本年度は実施していません。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

本年度の活動の中で、特に保護者にお世話になる取り組みについて、今まではあたりまえのように感じていたかもしれない。しかし、ユネスコスクールの視点で見直すと、学校だけでなく地域で学校を盛り上げていることがわかってきた。更には学校から地域へ発信する大切さも理解できるようになった。本年度はホームページの更新、学級学年通信の発行を心がけることができた。

（3）平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

4月の学級・学年開きにおいて、新しい環境でも積極的にがんばっていきけるような雰囲気大切にしたい。5月の体育祭では学級の絆づくりのきっかけとなるような活動をしていきたい。9月の文化祭では、お客様を楽しませるだけでなく、学級の絆の深まりを感じる企画を考えていきたい。そして、11月の合唱コンクールでは全校や保護者の前で学級のすばらしい歌声を披露していきたい。そして、それぞれの学年での大きな行事である自然体験活動（1年）、勤労体験学習・TBW（2年）、修学旅行・体育祭応援合戦（3年）などで、身につけたい能力・態度を生徒の実態に応じて確認し活動していきたい。